

「鄙の湯」
春の日にあたる叢
しづかなるそよぎの音も
聞き過ぎがたし
『倭をぐな』
釈 道空

Faculty of Economics

経済学部長



新任 学部長に 聞く



Faculty of Letters

文学部長



令和7年度、国学院大学では、文学部と経済学部それぞれ新たな学部長が就任した。世界各地での紛争や経済不安、急速な技術革新が進むなど社会は、かつてない変動期にある。先行きが見えない不透明な時代に学問の府としての大学は何を求められているのか。4月から学部運営に取り組む文学部の谷口雅博学部長、経済学部の根岸毅宏学部長に、目指す学部の展望を聞いた。

文学部の谷口学部長は、「私学の『文学研究の砦』として、文学を学びたいという学生の要望に応えられる学部であるという自負がある」と力を込める。文学研究は「過去と現在を検証し、より良い未来を描いていくもの」という。その上で、本学文学部の財産である「学統」について、「伝統を大切にしながら、それを乗り越えていくことが大切」と強調する。専門的な文学研究を継続していくため「学部と大学院の連携強化も目指したい」と抱負を述べる。

経済学部の根岸学部長は、令和2年度の経済学部改組に副学部長として携わり、現在の経済学科5コース・経営学科3コースの再編に取り組んだ。5年が経過した現在、新カリキュラムが「いい方向に定着してきた」と評価しながらも、経済学部に2学科があることを利点として捉え、「さらに本学部の特徴をどう生かしていくか考えていきたい」と語る。多様な社会課題に対応できる実践的で創造的な対応力を身につけた人材の輩出を目指したいと意気込みを述べた。

4・5面に続く

神殿鎮座記念祭並びに

竣功奉祝祭を斎行

神殿造替後初の記念祭

学校法人国学院大学は5月1日午前10時30分から渋谷キャンパス神殿で95回目となる神殿鎮座記念祭と、神殿造替工事に伴う竣功奉祝祭(斎主 星野光樹・神道文化学部准教授・神殿奉斎員)を、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ法人傘下諸学校の役教職員、神社関係者、工事関係者、学生らが参列



して、厳かに斎行した。祭典は、斎主、教職員の祭儀員、瑞玉會学生が祭員として奉仕し、神道文化学部学生による浦安の舞も奉納された。祭典終了後、明治記念館に場所をかえて祝賀会(兼直会)が行われ、会の冒頭で佐柳理事長が140周年記念事業の一大事業にあたり、参画していただいた方々に謝辞を述べるとともに、「学校法人国学院大学構成員一同が、一致団結し更なる発展に尽力していく」とあいさつした。その後、来賓祝辞では、仮殿を譲渡した明治神宮を代表し、九條道成宮司の祝辞を江馬潤一郎権宮司が代読された。また、施工関係者を代表し、清水康次郎・清水建設株式会社・専務執行役員東京支店長が、お祝いの言葉を述べた。

続いて、鏡開きが行われ、針本学長の乾杯の発声により会が始まり、歓談中に行われた清興では、神道系サークル・青葉雅楽会や、みずゝ会による演奏・演舞が披露された。最後に武智浩二常務理事が閉宴の言葉を述べ、会を締めくくった。

明治神宮の仮殿に関する詳細は2面に記載

みはるかすもの

新緑の映える季節になった。公益財団法人日本鳥類保護連盟は、毎年5月10〜16日を愛鳥週間と定め、全国各地で愛鳥にちなんだイベントが催されている。当の野鳥たちはそんなことは知らず、子育ての真っ最中で、忙しく飛び回っているようだ▼野鳥は餌を手に入れやすいこの季節に繁殖するが、人間はどうだろう。日本の月ごとの出生数は、現代では年間を通じてほぼ変わらない。当然のように思えるが、前川文彦氏の「動物の産まない仕組み(前編)」(UNIVERSITY PRESS 630号) 東京大学出版会)によれば、昭和45年までは、1〜3月の出生率が高く、6月は顕著に低

くなるなど、月による違いがみられた。離乳食を摂り始める時期に食物が豊富なことが生存の条件であるとすれば、狩猟生活の名残なのであろうか▼上記の論稿では、生物学的な考察によって少子化を解き明かす研究が紹介され、少子化をもつばら経済や社会学上の課題と捉えていた筆者は目から鱗が落ちた▼生物の栄養状態と生殖の関係に加え、日照時間がホルモン分泌に作用して、生殖活動が抑制される仕組みが紹介されている。鳥類や哺乳類において、もちろん人間も含めて、目から光(スマホなど)も含む)を取り込む時間の長短が繁殖行動に影響するのは、ほぼ確実らしい。これらの研究成果が少子化問題の要因を解明し、解決につながることを期待したい。初夏のまぶしい陽光を感じつつ、人の体は自然の一部であると、あらためて認識させられた。



新しい神殿が竣工し 本殿遷座祭を厳粛に斎行

学校法人国学院大学の神殿Ⅱ写真上は、明治神宮鎮座百年記念事業の一環として行われた御社殿群屋根葺替工事を内拝殿・本殿に着手するにあたって造営された仮殿を譲り受けたもので、柱材には、明治神宮が昭和30年代から40年代にかけて全国5カ所に設けた備林の一つである、和歌山県的那智勝浦の備林から伐り出した御用材が初めて使用されている。

令和5（2023）年9月11日に仮殿遷座祭を斎行した後、10月から造替工事に着手し、爾来旧神殿を解体して、たまプラーザキャンパスに移設。1年半余りを経て、4月27日に本殿遷座祭（斎主Ⅱ星野光樹・神道文化学部准教授・神殿奉斎員）を斎行し、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめとする法人役員らが参列した。



本殿遷座祭は、造替工事が完了し、御祭神を仮殿から本殿にお遷しする祭祀。神殿を祓い清める本殿清祓式が行われたのち、本学教職員、学生らの奉仕により斎行された。斎主による祝詞奏上ののち「遷御の儀」に際して、キャンパスの明かりを消灯し、淨闇（穢れのない暗闇）のなか、御霊代（Ⅱ御神体）は白い絹垣で囲まれ、仮殿から出御。装束に身を包んだ奉仕者ら45人が行列を組み、陰灯や提灯の明かりのみで御霊代を仮殿から本殿へとお遷ししたⅡ写真下。

遷座祭終了後、佐柳理事長より「新たな国学院の出发点として、少子化という難局に対しても、新しい神殿のもとで国学院の宣言を高らかに掲げ、力強く前進していきたい」とのあいさつが述べられた。



神道六部会による 稽古始奉告祭が斎行

令和7（2025）年4月26日午後1時より、神道六部会による稽古始奉告祭が執り行われたⅡ写真。神道六部会とは青葉雅楽会（雅楽）、みずゝ会（神楽舞）、瑞玉會（祭式）、萌黄會（衣紋着装）、禮法研究会（礼法）、若木睦（神輿）の、六つの神道系サークルからなり、それぞれ日々熱心な修練を重ねて、学内外のお祭りの奉仕やイベントのお手伝い等の活動に動んでいる。本学の恒例行事となっており、観月祭も神道六部会に所属する学生たちが中心となり、斎行している。

年度の開始にあたっての稽古始奉告祭には多くの新入生も参加。設えの準備から着装などの、すべてが先輩たちの手によるお祭りに、新入生たちはやや緊張の面持ちで参列していた。

第4回 Bloomingレクチャー

山科氏「多様性はすべてスペクトラム（連続体）であり、優劣はない」



人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンターが主催する第4回 Bloomingレクチャーが4月7日、対面とライブ配信のハイブリッド方式で開催され、約80人が参加した。今年度は山科満・中央大学教授（精神科医、臨床心理士）を講師として招き「大学生のこころの多様性について」と精神科医の立場から」というテーマで開催したⅡ写真。

山科氏は精神科医の立場から、多くの大学生の相談に応じた経験をもとに語った。多様性を理解するための前提となる考え方や、ニューロダイバーシティ（神経の多様性）に関連する具体的な事例も交えながら、「人間には得意なことと不得意なことがあり、社会によって優劣をつけられることは間違っている」と指摘した。

さらに、多様性とは「異なる考え方があるということ」との見解を示し、大学生活は学業や生活リズム、人間関係など、自分と他者との違いに向き合う時期であると述べた。そして、多様性の理解が自分自身や他者を理解する手がかりとなるとし、多様性との向き合い方や理解を

深めるための視点について多角的な視点から貴重なアドバイスを送った。最後に、「多様性はすべてスペクトラム（連続体）であり、優劣はない。障害は社会の側にある」と話をまとめた。

その後、参加者から多数の質問が寄せられ、「大学における学業や生活リズムの悩みを抱える学生に対して、どのように支援すればよいか」との質問に対して、「まずは学生の話に耳を傾け、受け止めること、学生自身の内面から気づきが生まれるような自己理解を促す関わり方をすることが重要」とアドバイスした。

また、「学童でアルバイトしている中で、精神的に安定しない子どもに対して、どのように振る舞ったらよいか」という質問に、山科氏は「子どもの行動を変えてほしいときは、安心と安全の環境を提供することが大切。子どもは信頼関係ができて初めて大人の話に耳を傾けてくれる。そして、怒るのではなく、すてきな人になるためのヒントを与え、できたときには褒めてあげることが重要である」と回答した。

令和6年度指定寄付者一覧(敬称略)

令和6年10月1日～令和7年3月31日(単位:円)

寄付者	寄付目的	寄付金額	収納日
荒井 康一郎	学生・生徒等の活動支援(バスケットボール部)	5,000	令和6年10月 7日
匿名	学生・生徒等の活動支援(久我山中学・高等学校)	3,000	令和6年10月16日
		3,000	令和6年11月13日
		3,000	令和6年12月17日
		3,000	令和7年 1月16日
		5,000	令和7年 2月17日
		5,000	令和7年 3月11日
関根 俊	学生・生徒等の奨学基金	1,000,000	令和6年10月20日
柴野 悠樹	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和6年10月22日
清水 理江子	学生・生徒等の奨学基金	5,000	令和6年10月22日
		5,000	令和6年11月22日
		5,000	令和6年12月23日
		5,000	令和7年 1月22日
		5,000	令和7年 2月25日
		5,000	令和7年 3月25日
關橋 淳	学生・生徒等の活動支援(硬式野球部)	1,500	令和6年10月22日
		1,500	令和6年11月22日
		1,500	令和6年12月23日
		1,500	令和7年 1月22日
		1,500	令和7年 2月25日
		2,000	令和7年 3月25日
国学院大学久我山中学・高等学校同窓会 久我山会会長 上脇 辰三	教育・研究振興支援(久我山中学・高等学校)	10,000,000	令和6年10月24日
栗原 彰	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	10,000	令和6年11月 5日
園田 治穂	学生・生徒等の活動支援(国学院大学体育連合会吹奏楽部)	30,000	令和6年11月 8日
長谷川 裕貴	施設・設備充実支援	10,000	令和6年11月 8日
黛 和夫	教育・研究振興支援	20,000	令和6年11月 8日
杉山 道明	学生・生徒等の活動支援(硬式野球部、陸上競技部)	20,000	令和6年11月12日
	施設・設備充実支援(神殿造替工事、萬葉の花の会(萬葉の小径充実))	110,000	令和6年11月12日
松浦 博	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和6年11月19日
国学院大学北海道短期大学部家主連絡協議会 会長 吉田 和幸	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	50,000	令和6年11月21日
佐藤 三緑	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	2,000	令和6年11月22日
柳田 充輝	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	5,000	令和6年11月22日
栗田 義彦	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	10,000	令和6年11月22日
金子 良太	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和6年11月22日
飯田 愛子	教育・研究振興支援	10,000	令和6年11月22日
高山 充	教育・研究振興支援	30,000	令和6年11月22日
橋本 博之	学生・生徒等の活動支援(剣道部、陸上競技部)	20,000	令和6年11月27日
矢澤 敏司	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和6年11月27日
谷口 彰一	教育・研究振興支援	2,000	令和6年12月 9日
大上 夏子	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高等学校ラグビーフットボール部)	10,000	令和6年12月 9日
島田 寛	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高等学校)	100,000	令和6年12月 9日
市川 博之	学生・生徒等の奨学基金	15,000	令和6年12月 9日
		25,000	令和6年12月23日
株式会社KOJIMASPORTS代表取締役 小島 光顕	施設・設備充実支援(相模原グラウンド宮織)	504,000	令和6年12月10日
高橋 一行	施設・設備充実支援(校地拡充)	200,000	令和6年12月13日
匿名	学生・生徒等の奨学基金	20,000	令和6年12月16日
薄井 健史	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高等学校)	3,000	令和6年12月23日
小林 静子	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	5,000	令和6年12月27日
武内 夏暉	学生・生徒等の活動支援(硬式野球部)	2,000,000	令和6年12月30日
匿名	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部、硬式野球部、全學應援團)	30,000	令和7年 1月 8日
横田 裕孝	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	10,000	令和7年 1月22日
峯村 一幸	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	10,000	令和7年 1月22日
江原 雅裕	学生・生徒等の活動支援(硬式野球部)	1,000,000	令和7年 1月29日
瀬戸川 睦人	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	30,000	令和7年 2月 5日
	教育・研究振興支援	70,000	令和7年 2月 5日
姉川 光邦	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和7年 2月 7日
株式会社エデュース代表取締役社長 松本 雄一郎	学生・生徒等の奨学基金	1,300,000	令和7年 2月19日
株式会社アルク代表取締役 實川 利光	学生・生徒等の奨学基金	60,000	令和7年 2月20日
シニアソフトボール大野台クラブ有志代表 佐藤 忠司	施設・設備充実支援(相模原グラウンド)	24,000	令和7年 3月 3日
国学院大学院友神職会会長 松山 文彦	教育・研究振興支援(研究開発推進センター学術研究資金、神道文化学部活動支援資金)	6,500,000	令和7年 3月14日
東京都神社庁庁長 小野 貴嗣	施設・設備充実支援(神職養成の事務機器等購入費)	350,000	令和7年 3月21日

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。

令和6年10月から7年3月まで別表の通り、多方面の方々からご寄付を賜りました。ここに「ご芳名を掲載し、重ねて深甚の謝意を表します。」

「指定寄付金」ご芳名

(総務部総務課)

たまプラーザキャンパス

開設四〇周年

令和7(2025)年、横浜・たまプラーザキャンパスは、その開設から40回目の節目の年を迎えた。同キャンパスが横浜市青葉区新石川の地に根を下ろし、変わりゆく社会環境のなかでどのように発展してきたのか、その軌跡を辿りたい。

国学院大学創立100周年記念事業の一環として新石川(当時は神奈川県川崎市と称した)に新たな校舎と体育館の建設が計画されたのは、昭和55(1980)年のことであった。しかし、学生運動や社会情勢の影響により計画が遅れ、校地および校舎の完成をみたのは昭和60年3月のことであった。翌月より授業と課外活動が開始され、学問の場としての新たな基盤が築かれるとともに、新校地はその後の地域社会との深い結びつきに寄与することとなる。

平成5(1993)年には、「萬葉の花の会」が創設され、万葉集に登場する植物を通じて日本の自然や文化を理解することを目的とした公開講座が毎年開催されるようになった。この講座は地域住民との交流の重要な場となり、キャンパス内の「萬

葉の小径」では万葉集に登場する植物が植栽され、訪れる人びとは古典文学と自然との深いつながりを感じながら学びを深めることができる。

近年、たまプラーザキャンパスでは再開発が進み、施設の更新と拡充がおこなわれた。とくに、1号館の外装改修や「SPORTS SQUARE」の新設が進み、キャンパス内の動線や利便性が向上した。また、令和4年には「観光まちづくり学部」が新設され、地域社会との連携を強化する学問領域が追加され、文系・理系の枠を超えた学びの場が提供されることとなった。これは人間開発学部(平成21年開設)ですでに進められてきた地域に密着した教育の展開や、心身の「健康づくり」促進を目指した実践的社会貢献活動とも相俟って、地域との共生を深め、次世代のリーダーを育成する基盤としていっそう重要な役割を果たすことが期待される。

また、創立140周年記念事業の一環としておこなわれた神殿造替・移築事業では、渋谷キャンパスに九十余年にわたり鎮座してきた神殿がたまプラーザキャンパスに移築され、令和6年12月16日に清祓式を執り行った。今後は歴史的建造物として保存・継承される。と同時に移築された神殿には、地域住民にとっても身近な存在となることが期待され、地域との繋がりの強化への寄与といった点で、これからのたまプラーザキャンパスに注目したい。

たまプラーザキャンパスは40年にわたって学問と社会のニーズに応え、地域社会とともに成長してきた。今後もその伝統を守りながら、国際的な視野を持つ人材を輩出するためにさらなる発展が求められるだろう。

研究開発推進機構助教比企貴之



移築後の旧神殿

都市農業を育て、持続可能な共生社会へ

第3回しぶカフェ

「渋谷の農と食が育むまちづくり

～都市から『未来を耕す』試み！～



動画配信中▲



こうして、僕は、渋谷に畑や田んぼを作って日々、野菜やお米を仲間と一緒に育てるようになったのです。

「しぶ野菜+渋谷祭」を開催するアイデアを発表した。

国学院大学研究開発推進センターが「SDGs」と建学の精神」研究事業の一環として開催した第3回「しぶカフェ」(共生社会×渋谷カフェ)の動画が令和7年2月から大学公式YouTubeチャンネルで公開されている。

しぶカフェは本学の地元でもある多様性のまち、渋谷を学際的に科学する「渋谷学」と、持続可能(サステナブル)な共生社会へとつながる共生社会の構築について考える「共存学」の融合・発展を目的に緩やかな学びの場を提供する公開講座。シブヤサステナブル推進協議会(シブサス)の協力を得て、シブサスマンバーとの対話を進めることで、持続可能な社会やSDGsについて考えるきっかけにしたいと企画された。令和4年度に第1回が「シブサス、東京渋谷で進む環境にやさしいまちづくり」をテーマに開かれ、翌年度には第2回「渋谷の落書きとアートのあいだ」「仕事」+持続可能なまちづくり

」が実施された。締めくくりとなる第3回は「渋谷の農と食が育むまちづくり」都市から「未来を耕す」試み！」をテーマとし、「農」の視点から地域活性、環境対策、食料自給などの課題解決に都市住民が関わっていく手段や意識づくりなどについて対話が行われた。

シブサスリーダーの松嶋範行氏が区民の手で育てられた長野県飯田市の「しぶの森」を拠点にした交流活動などを報告した後、コーディネーターの古沢広祐・国学院大学研究開発推進機構客員教授が人の命を育む農と食の重要性を指摘。命のもとになる食物を持続可能なものとするため、農山漁村発イノベーションや都市農業が重視されている現状を述べた。

続いてNPO法人アーバンファーマーズクラブ代表理事で、渋谷区ふれあい植物センター園長の小倉崇氏が「なぜ今、渋谷で農と食なのか」と題し、繁華街のビル屋上などを活用した「畑」で農作物を育てるアーバンファーマーミング(都市農業)を始め、たきかけや意義、現在約830人の会員が都市農業を実践していることを紹介した。また一昨年、農と食の地域拠点」を掲げてリニューアルした同センターは約50種類のハーブを栽培するなど、育てて食べる植物園」だと説明。ハーブを使った「渋谷酒」を作るなどユニークな取り組みを入り口に、都市農業への共感者を増やす試みを続けていると報告した。その後、3人のトークセッションに進み、都市と地方が対立するのではなく、多様性を認め合う中で互いの課題をつなげ、大きな枠組みで解決していく方向性などについて意見が交わされた。

最後に渋谷区環境政策課の中尾みなみさんが区の緑化推進の取り組みを紹介。また本学学生で令和6年度後期開講科目「共存・共生の思想」でファシリテーターを務めた村早彩さん(経3)が都市農業拡大に向け、渋谷の野菜を売るイベント「しぶやさい」

国際交流歓迎会

交換留学生らと本学学生が交流



国学院大学で学ぶ留学生と日本人学生らの学内国際交流イベント「国際交流歓迎会(Welcome Coffee Hour)」が留学生の歓迎会として4月18日に渋谷キャンパスで開催され、約100人が交流を深めた。

初めに田原裕子・国際交流推進部長(経済学部教授)が「本日は多くの在学学生が参加してくれ、とてもうれしく思う。皆さんが国際交流や留学生受け入れに関心を持ってくださることが本学のグローバル化につながっている。留学生のみならずにとつて本



参加者はゲームを通じて交流を深めた

学での学びが充実したものになるよう祈っている」と学生たちへ向け、歓迎の言葉を述べた。

続いて、今年から留学を開始するK-STEP交換留学生、科目等履修生、学部留学生、大学院交換留学生がそれぞれ日本語であいさつをし、自分の出身地や趣味について話すと、参加した学生たちから歓声と盛大な拍手が送られた。

その後は「I know a person who... (私はこんな人を見つけました)」と題し、自己紹介をしながら配布された用紙に書いてある趣味や特技などの項目にあてはまる人を探しながら進行していくゲームが行われた。「韓国語で自己紹介できる」「台湾に旅行したことがある」など留学生の出身地に関係する項目もあり、お互いに質問を交わしながら交流する様子が見られた。

今後は、隔週金曜日に、国際交流イベント「International coffee hour」が開催される予定。

GO GLOBAL WEEK を開催



海外留学を希望する在学生へ向けた説明会や個別相談を行う「GO GLOBAL WEEK ~留学を考える1週間~」が4月14日から18日にかけて渋谷キャンパスで開催された。

16日には、国際交流課の職員による留学についての説明会が行われ、留学の全体概要や留学に行くために必要な条件や準備などについて説明が行われた=写真。

その他、JSAF(日本スタディ・アブロード・ファンデーション)による説明会や夏期短期留学説明会も実施。期間中は個別相談会も開催され、多くの学生たちが参加した。

アカデミック・スキルズ講座で学修をサポート



令和7年度アカデミック・スキルズ講座の第2弾から第4弾が、4月15日から5月13日にかけて渋谷・たまプラーザの両キャンパスで開催された。この講座は、学修に対する不安解消のために開催されているもの。教育開発推進機構の内村慶士助教が講師を務めた。

4月15、16日に渋谷キャンパスで実施された第2弾は「ボードゲームで学ぶ大学生活の時間管理」をテーマに、大学生活での時間やお金の管理などが疑似体験できるボードゲーム型教材を使用して講座を実施した。

第3弾と第4弾アカデミック・スキルズ講座は「ワークスペースアプリ【Notion】を使った効率的な授業管理術」をテーマに開催された。第3弾は初心者向けの基礎編として4月22日にたまプラーザキャンパス、24日と30日に渋谷キャンパスで、第4弾は応用編として4月30日、5月7日、13日に渋谷キャンパス、8日にたまプラーザキャンパスで、それぞれワークショップ形式で実施した。

若木育成会 本部役員会を開催



在学生の保証人(父母ら)で組織される若木育成会は、4月19日、渋谷キャンパスで本部役員会を開催した=写真。会議では、令和6年度の事業報告および決算、令和7年度の事業計画や予算、会長・副会長候補者の選出などが審議及び承認された。

会議後は、若木タワー18階の有栖川宮記念ホールで懇親会が実施された。若木育成会三役や各学年幹事らと学内幹事とで積極的に情報交換を行った。

【おわびと訂正】

国学院大学学報744号6面「大学の主な役職員人事」記事における退職日について一部誤りがありました。おわび申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

誤 [大学事務局]◆自己都合◎専任▶教学事務部教務課▷ロビン聖加(令和7年3月31日付)

正 [大学事務局]◆自己都合◎専任▶教学事務部教務課▷ロビン聖加(令和7年4月30日付)

インフォダイジェスト

...在学生 ...保証人 ...卒業生 ...一般 ...受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

「指定寄付金」ご協力のお願い



内 学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。寄付の種類は「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の四つに加え、学生の課外活動（スポーツ強化部会など）を支援するための「課外活動支援」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツなどの課外活動に熱心に取り組む学生に向けて、HP上からメッセージを直接投稿してもらう仕組みです。ワンコイン（500円）から寄付が可能で、メッセージはそのまま専用HPで公開されます（匿名可）。

申 専用紙またはインターネットでのクレジットカード決済が可能です。

問 総務課 (☎03・5466・0111)

※本法人への指定寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。寄付に関する情報は専用HP (<https://kifu.kokugakuin.ac.jp>) で閲覧できます。

本学が参加予定の進学相談会 (5月下旬～6月)



内 各地で開催される進学相談会に参加を予定しています。入学試験制度や本学の学びに関する最新情報をもとに、進学に関する疑問や質問に直接お答えします。本学への進学をお考えの受験生、保護者の方はぜひご来場ください。進学相談会の最新情報は本学HP（二次元コード）からご確認ください。



目・図・圖 別表参照

問 入学課 (☎03・5466・0141)

令和7年度 進学相談会参加予定一覧（～6月）

都道府県	都市	会場	開催日	時間
東京	水道橋	東京ドームシティ	5月23日(金)	13:00～18:00
神奈川	横浜	横浜そごう 新都市ホール	5月24日(土)	11:30～18:00
宮城	仙台	アエル(中小企業活性化センター)	5月24日(土)	13:30～17:00
静岡	静岡	ツインメッセ静岡	5月25日(日)	11:00～16:00
新潟	新潟	朱鷺メッセ	5月25日(日)	11:00～16:00
群馬	高崎	ピエント高崎	5月25日(日)	11:00～16:00
東京	池袋	サンシャインシティ	5月31日(土)	11:00～17:30
茨城	水戸	水戸プラザホテル	6月 2日(月)	10:25～17:30
栃木	宇都宮	マロニエプラザ	6月 4日(水)	14:00～18:30
神奈川	横浜	横浜そごう 新都市ホール	6月 7日(土)	13:00～17:00
埼玉	大宮	大宮ソニックシティ	6月 9日(月)	15:30～18:30
長野	松本	やまびこドーム	6月10日(火)	13:45～18:00
長野	長野	ビッグハット	6月11日(水)	14:00～18:00
愛知	名古屋	ナディアパーク デザインセンタービル	6月14日(土)	10:00～17:00
静岡	浜松	アクトシティ浜松	6月15日(日)	13:00～17:00
東京	池袋	サンシャインシティ	6月15日(日)	11:00～16:00
広島	広島	広島国際会議場	6月15日(日)	10:00～17:00
千葉	幕張	幕張メッセ	6月15日(日)	11:00～16:00
埼玉	川越	ウェスタ川越	6月20日(金)	14:00～18:00
大阪	梅田	梅田クリスタルホール	6月21日(土)	10:00～17:00
福岡	福岡	TKP エルガーラホール 大ホール	6月22日(日)	10:00～17:00
宮城	仙台	仙台国際センター	6月22日(日)	12:00～17:30
山梨	甲府	アイメッセ甲府	6月22日(日)	11:00～16:00
北海道	札幌	TKP 札幌駅カンファレンスセンター	6月29日(日)	10:00～17:00

イベント

30

令和7年度 オンライン公開講座 「世界の人々の生と死」



内 本講座は、世界のさまざまな地域に根づく人々の死生観について、とりわけその地域の宗教文化に着目しながら、学んでいく講座です。今回は、日本・中国・南アジア・中東・ヨーロッパと五つの地域を取

り上げ、各地域で展開する死生観について、1回90分・全5回のオンライン講座の中で多様な学問の観点から講師よりお話いただきます。

目 6月13日(金)～10月17日(金)

料 11,000円 (全5回)

申 令和7年6月6日(金)締め切り。専用HP (二次元コード) から申し込み。



問 エクステンションセンター (☎03・5466・0270、✉jigy@kokugakuin.ac.jp)

キャリアサポート



※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

筆記試験ガイダンス & SPI 模試体験会

内 これまで経験してきた「テスト」とは内容も出題形式も全く異なるのが就職活動での筆記試験です。このガイダンスでは、筆記試験の概要を説明した後、採用選考で多く用いられているSPIの模擬試験を体験することで効率的に筆記試験について学ぶことができます。

目 6月7日(土) **対** 1～3年生・院1年生

WEB 合同企業説明会

内 本学学生の採用意欲が高い、優良企業をお招きして開催する学内合同企業説明会です。応募先企業を新たに探したい方は、ぜひご参加ください。オンライン形式で開催します。

目 6月4日(水)

対 4年生・院2年生

キャンパスライフは「出会い」から



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
 学校法人国学院大学特別参事。
 人間開発学部初代学部長、専門
 は教育社会学、人間発達学。新
 しい時代の子育て論には定評。

「入学おめでとう」と、私は敢えて言わない。これは入学祝いの席では場違いの言葉かもしれない。しかし、入学に浮かれず見聞を広め、充実したキャンパスライフを送ってほしいという願いからの贈り言葉です。実際、未だ「入り口評価」「学歴主義社会」が残存する日本に対し、「出口評価」「資格社会」の米国では一般に入学式自体無く、学科オリエンテーションのみ。その代わり卒業式は、もうお祭り騒ぎ。その充実したキャンパスライフにするために挙げるべきキーワードの一つが「出会い」です。では、「出会い」とは何か。「教育」とは出会いなのですが、よく口にされる言葉ですが、定義は曖昧です。私は「出会い」を以下のように定義しています。「異なる立場の両者が互いに受け入れ合い（受容）、そこから友情、尊敬、信頼、期待などの心情が生まれること（創造）」太鼓とバチで比喻すれば、互いに受け入れ合（受容）、そこからリズムが生まれます（創造）。ムが生まれます（創造）。学生間で、教師と学生との間で、「出会い」を創ってほしいと願います。一回りも二回りも、あなたを大きくしてくれます。「出会い」に関する事例を一つ挙げましょう。学生たちを連れて障がい者の福祉作業所の田植えボランティアに参加した時のことです。私たちが大切な作業は、田植えに入る前のアザミの刈り取り作業でした。この作業所は、山の中腹にあり、アザミが咲き誇っているのですが、そのとげは、午後からの地元の小・中学生のボランティア田植えの邪魔になるのです。昼食の時間になりました。が、養護学校高等部になったばかりのM子が戻って来ません。暫くして彼女が、私たちが除去したアザミの花を抱えて戻って来ました。そして、「きれい、きれい」と言いながら牛乳瓶に一本ずつさしていくのです。園長曰く、「この子たちは99%、お世話を必要とする子。しかし、残り1%で「ありがとう」と言わせてくれる。これは優しい子どもとかの個人の性格の問題ではない。私たち健常者は要か不要か物として見てしまう。それに対し、彼女たちはこうして宇宙を包み込む優しさを教えてくれる。」「園長、出会ったね！」私も思わず吐露です。園長は、この出会いの「コマ」を詩にしました。「この子は あざみの花を 胸いっぱいいだいてきて 教室の花びんにさせという あざみのとげのチクチクと痛いだろうに この子は花きれいな花きれいなと あざみの花を 花びんにさす野の花の心がわかるのか この子」（田代一茂著「小さなほとけたちのなみだ」）



近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちと一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。感想や新富名誉教授への質問、講演依頼などございましたら広報課までお寄せください。

K:DNA —— 創立143年を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

学生アドバイザーの活動を通じて、 企画運営の楽しさや組織運営の魅力を実感

高橋凜さん（経営4）は、学生の視点を活かして国学院大学の魅力を伝えることを目的とする学生アドバイザーとして1年生から活動している。3年目は渋谷キャンパスで活動する学生アドバイザーのリーダーとして、イベントを企画・運営した。これまでの活動や経験から得たものなどについて話をうかがった。（インタビューは3年次に実施）

高橋凜さん（経営4）

高橋さんが学生アドバイザーになった理由は、コロナ禍により文化祭などの行事が中止となり、高校生活を不完全燃焼のまま過ごした経験と、受験時に大学の公式SNSやイベントが情報収集の手段として役に立った経験があったからだという。大学生になったら発信側になり、イベント関係の活動に打ち込んでみたいと考えたそうだ。

学生アドバイザーは、大学業務に学生が参加し、イベントや学生生活の支援に携わる活動制度（学内ワークスタディ）の一つである。渋谷、たまプラーザキャンパスにそれぞれ、1年生から4年生までの30人ほどが在籍し、在学生の視点から国学院大学の魅力を受験生に伝える活動をしている。メインイベントである8月のオープンキャンパス企画を5月からスタートさせるほか、高校生や保護者を対象としたキャンパス見学会や広報イベントを実施している。

オープンキャンパスの組織体制としては、ユーティリティという本部的なセクションや来場者向けのトークショー・キャンパスツアー・個別相談・展示・くくぴょんグリーンティングなどの各企画を運営するセクションがある。オープンキャンパスの当日スタッフとして活動するイベントサポーターと呼ばれる学生たちも加えると、総勢100人規模にもなるという。

「個性豊かで、ひとつのことに打ち込んでいる学生が多く、充実した大学生活を楽しんでいる雰囲気を感じます。そのような国学院大学の学生の姿も魅力として伝えていきたい」と語る。また、一人の大学生の先輩として、進路の考え方や生活の仕方なども受験生にアドバイスしているという。

それにしても、100人もの学生をまとめるのは、並大抵のことではない。どのようなリーダー像を描いていたのだろうか。

「雰囲気は柔らかく、でも芯を持って、でした。雰囲気よく活動した方がよいのは当然のことですが、重要な仕事をしているのだから友達的ななれ合いで



はダメ。また、すべての意思決定はリーダーの役割なので、最終的に決断する責任の重さを常に自覚していました」

高橋さんのたたずまいや受け答えの様子は、まさに理想とするリーダー像そのものだ。実際に1年間リーダーを務めてみてどのように感じたのだろうか。

「もともとはリーダーシップがある方ではないので不安でしたが、学生アドバイザーのメンバーは私の性格がわかっていたし、主体的に動ける人たちだったので、私は調和させる役に徹することができました。一人一人の頑張りを支えたり、ちょっと後押ししたり……リーダーとして、グイグイ引っ張るタイプじゃないからかえってよかったと感じる部分もありました」

仲間が互いを理解し、組織の目標達成のために協力し合いながら、各自の持ち味を発揮している様子がうかがえる。最後に、学生アドバイザーをやって

きて得たものを問うと、しばらく考えた末、組織運営ができたことかなと語り始めた。

「小さくても企業のように体制が整っている組織で、リーダーを務められたことには感謝していますし、経営学科で学んだ人的資源管理の視点を生かし、一人一人が持つ力を引き出して活躍できる組織づくりを工夫することができた経験は大きかったと思います。そして、各企画を運営するセクションの活動を陰で支えたり、全員のスケジュール管理をしたり……リーダーといってもそのような支える仕事が多く、自分はやはりこういう仕事が好きなんだと実感しました。就職活動も企業の土台を支える仕事を中心に進めています」

高橋さんは3年間で、経験を重ねながら、自分自身を知り役割を自覚できるようになったといえそう。高橋さんの個性と魅力が発揮できる仕事と出会えるよう応援したい。

インタビューの詳細は「国学院大学メディア」で公開予定

硬式野球部

東都大学野球 5位で終盤戦へ

東都大学野球1部春季リーグが第3週を終え、国学院大学硬式野球部は5位となっている。

第1週は日本大学と対戦。4月7日の初戦を落として迎えた翌日の第2戦では、八回裏に竹野聖智選手（史3）がソロホームランを放ち、2-1で勝利を飾った。9日の第3戦では、三回裏に中西流空選手（経4）がセカンドへのヒットで出塁、菅野陽士選手（健体4）のセカンドゴロで2死二塁の場面を迎えると、赤堀颯選手（経営3）のタイムリーツーベースヒットで1点を奪い取った。その後も五回裏に2点、六回裏には緒方漣選手（健体2）のソロホームランが飛び出し、さらに1点を追加。4-3で勝利し、勝ち点1を獲得した。

第2週は東洋大学と対戦。16日の第1戦は二回表に緒方選手がソロホームランを放ち先制するが、その後

は得点を重ねられず、苦しい展開が続いた。九回表に渡辺嶺選手（健体4）がライトへのヒットで1死一塁とすると、調祐李選手（史4）がレフトへの2ランホームランで2点を獲得したものの、3-6で惜しくも敗れた。17日の第2戦は四回裏に渡辺選手がソロホームランで1点を獲得するなど活躍をみせたものの2-6で、連敗となった。

第3週は、ここまで1試合も落としていない亜細亜大学と対戦。22日の第1戦は投手戦の末0-3、24日の第2戦は1-1で迎えた七回表に相手の6番竹内選手のソロホームランを浴び、その後八回、九回にも1点ずつを加えられ1-4で敗戦となった。今後、第4週は中央大学、第5週は青山学院大学と対戦。後半戦での巻き返しに期待がかかる。



日本大学との第3戦でホームランを放つ緒方選手